

福井県人の誘導した西洋文化の啓蒙書

岩 治 勇 一

我国における近代的な意味での西洋医学のいどぐちは、福井県人杉田玄白（小浜藩医）等の『解体新書』に始まっている。この書によってオランダ医学こそ、真の医学であるということを感じた人達は、争って蘭学を修めその専門とする領域の医書を翻訳したので、年と共に西洋医学の基礎は固まっていた。

江戸時代に翻訳または著作された西洋医書は千五百部以上のおびただしい数にのぼる。まして書名のみ知られて内容の伝わらないものや、出版されずに写本だけでしか伝わらない本も少なくない。

これらの本の翻訳者や著者はいずれも速やかに、我国に西洋医学を樹立しようと、おくれはせながら力の限りを洋書の解説につくした。単なる翻訳や紹介にとどまらず、批判や創意が加えられていることを看取しなければならぬ。蘭学から発展した西洋医家たちは多くの人が日本人たる自覚の上に、貧弱な我国の医学を科学的基礎の上におこうと心がけたのである。

左記の翻訳・出版・伝写本（安永二一明治二十）は、若越（福井県）の名流が誘導した西洋文化の啓蒙書（医学・砲術・航海・築城・語学・理化学・法政学）である。

我国の所謂蘭学の発達においても、その蘭学（洋学）の内容は

- 1、オランダ語学
 - 2、医学・本草学系統の学問
 - 3、天文学・地理学系統の学問
 - 4、兵学系統の学問
 - 5、人文科学系統の学問
- に分けて観ることが出来るが、本県先啓の西洋文化の啓蒙書が、多岐に亘りそれ等を網羅している。その進歩性と貢献に驚嘆するものである。

解体約図 五葉（安永二刊、杉田玄白訳）

幕府や一般の人々の反応を打診した予告編（『解体新書』）といえ、別の翻訳著書であり、西洋解剖学の大要を最初に示した。

全身骨格は『ドンミューヌ解体書』、脊柱は『カスバル解体書』からのものである。

解体新書 五（安永三刊、杉田玄白訳）

- 1、蘭学の興隆のきっかけを与えたこと。
- 2、医学の近代化への足掛かりとなった。
- 3、文化的な資料価値は極めて高い。

原書 Jhan Adam Kulmus. (Gerardus Dienen)

Ontleekundige Tafele. Amsterdam. 1734.

瘍医新書 四（寛政二稿、文政八刊、杉田玄白起草、大槻玄沢

続訳）

西洋外科書翻訳の始めである。

原書 Laurus Heister.

Heelkundige Onderwyngen. (Hendrik Uihorn)
Amsterdam. 1741.

和蘭医事問答 二 (寛政七刊、建部清庵、杉田玄白問答)

一関藩侍医建部清庵と小浜藩医杉田玄白の往復の書翰集である。
重訂解体新書 十四 (寛政十稿、文政九刊、杉田玄白訳、大槻
玄沢重訂)

翻訳原書は『解体新書』に同じ。同書の「翻訳新定名義解・六
冊」は重要である。

形影夜話 二 (文化七、杉田玄白著)

解体新書翻訳当初より苦心したる経歴を記録し、門人大槻玄沢
に与えたもの、我国洋学史上貴重なる法典である。

眼科新書 六 (文化十二刊、杉田立卿訳)

杉田立卿は玄白の息子、この書は西洋眼科翻訳の始めである。

原書 Joseph Jacod Plenck. (M. Prays)

Verhandeling over de oogzichten. 1787.

黴瘡新書 五 (文政四、杉田立卿訳)

西洋黴毒書翻訳の始めである。

原書 J. E. von Plenck

Doctrina de morbis veneris. 1779. <—ste D.>

このものを独訳し、さらに蘭訳したものを文政元年蘭使節に随
い、来朝の船医より請い漢文を以て翻訳したものである。

解臟図賦 一 (文政五刊、池田冬蔵著)

洋方医、小森桃塙が京都西刑場で教道という二十三歳の男刑屍
を解剖した記録を門人池田冬蔵へ義之、伯宜、復堂又、通齊、

福井の医 \checkmark が編して上梓したものである。福井医による最初の解剖出
版書である。

瘍科新選 五 (天保三刊、杉田立卿訳)

西洋外科全書翻訳の始めである。大槻磐溪序、奥国プレック原
著、記述簡略只診断及活方の要旨を挙げると雖も、和蘭外科に
全書あるは此書に始まる。

外科手術纂要 一 (天保三写本、杉田立卿訳)

瘍医方範 十 (天保三写本、杉田伯元訳)

日本風俗備考 廿二 (天保四写本、杉田成卿訳)

原書は蘭人ヒスセル文政年間和蘭商館勤務中我国の風俗を記述
し、帰国後アムステルダムにて一八三三年刊行。

J. G. F. van Overmeer Fisscher.

Bydrage tot de Kennis van het Japanische Ryk.

<日本国の知識に対する寄与>

濟生三方 附 医戒 四 (嘉永二刊、杉田成卿訳)

原書 C. W. Hufeland.

Enchidon Medicum. Amsterdam. 1836.

①De drie hoofdmiddelen der Geans-Kunde, en de
Verlijtingen des Geneesheers.

<三方と医師の義務>

②Herdrukt door A. J. Houzari, Ansei 5 jaar.

<武州八王子、蘭方医秋山方斉の復刻>

濟生備考 三 (嘉永三刊、杉田成卿訳)

聴診法と亜的耳麻酔法を日本に最初に紹介したもの。

原書 <牛痘略説>

Georg Friedrich Most.

Encyclopedisch woordenboek der practische genees,
hell, en verloskunde. 1838.

<亜的耳吸法試説>

Joseph Schiesinger (J. Sartius).

Over den invloed der inademing van den zuavel-
aether op menschen en dieren.

『聴胸器用法略説』は嘉永元年日本に、牛痘漿を持ってきた
Otto Mohricke が聴胸器の使い方と臨床的意義について書いた
たものを訳したものである。

治痘真訣 一 (嘉永二刊、杉田成卿訳、土田玄意校)

前記 Enchiridion Medicum の Pocken の部の翻訳。

土田玄意(一八一三—一八八八)名實、玄意、号龍灣、大野
藩洋医。

地字正宗 七 (嘉永三刊、杉田玄端訳)

このものは P. J. Prinsen の『地理学教科書』一八一七年版。

海上砲術全書、海上砲具全図 (嘉永四稿、安政元、大野藩上木
幕府訳官訳・大野文庫蔵版)

原書 J. N. Calten.

Leidraad by het onderigt in zee-Artillerie. Delft,
1832.

洋砲試験表 一 (嘉永二刊、杉田成卿訳)

原書 J. P. C. van Overstarren.

Handleing tot de kennes der artillerie. 1850.

砲術訓蒙 四 (安政二刊、杉田成卿訳、木村軍太郎署名)

前記和蘭砲術甲比丹ハン・オフルスタマテンの蘭書の翻訳。

三兵用訣精論 八 (安政三写本、大野藩士西川貫蔵訳)

原書 N. O. Okonnet. (A. W. de Bruyn)

Berdeneerd overzigt van de eigenschappen der drie
wapans. Measricht. 1835.

西川貫蔵(一八一三—一八八八)字子徹、通称繁次郎、昌貫、
大野藩士、大野藩洋学館助教授。

註、次の二書は、嘉永年間、夫々改訳、並びに翻訳推定のものである
が、前記書と極めて関係ある西川貫蔵のものであるので、ここに掲
げた。

改訳三兵用訣 八 (嘉永三、三兵答古知幾、写本、高野長英訳。

西川貫蔵改訳)

原書 Heinrich von Brndmt.

Grundzuge der Taktiek der drei wapfen. 1833. ©
J. J. van Mulken. Taktiek der wapens. Breda.

1837 蘭訳本の翻訳。

大野藩士西川貫蔵は、緒方洪庵の適塾(安政二・八・十二入
門)で福沢諭吉と並び称せられた秀才である。前記三兵用訣精
論翻訳前に改訳を試みたものであろう。

百氏巨砲説略 四 (嘉永?写本、西川貫蔵訳?)

原書 H. T. Paixhans.

Proefmingen. gedaan door de Fransche Marine

ontrent de bombekrans. S. Gravenhage. 1835.

和蘭語学原始 一 (安政三刊、福井藩翻訳)

全文筆記体の木版刷、「越前国校蔵版」の印あり。

原書は、Eerste beginselen der Nederdutsche Spraakkunst.

オランダ文法初歩で蘭領東インドの学校で用いるため、一八四

四年ジャワ北岸のスマランで刊行された簡略な文法書。

蘭風新話 二 (安政四刊、伊藤慎蔵訳)

航海術の書、大野藩洋字館蘭学教授伊藤慎蔵訳、大野鈍鈍軒蔵

版、大野洋字館より出版。英書による蘭書の翻訳。

英書・Henry Piddington.

Conversation about Huricans. for the use of plain sailors. London. 1852.

蘭書・S. van Delden.

Gespreken over orkanen. Amsterdarn. 1853.

伊藤慎蔵八一八二五—一八八〇✓長州萩渡崎の人、名精一、慎

慎蔵、字君独、長洋。緒方洪庵の適塾の塾頭。

英吉文典 一 (安政四刊、大野文庫蔵版)

オランダ語の英文法原書の復刻、三部の内第一部の復刻、大野

藩洋字館の英学研究資料として貴重。

原書 R. van der Pyl.

Engelsch Lees en vertaalboekje. voor Eerstabeginnenden. Dordrecht. 1842.

増補改正訳鍵 五 (安政四刊、広田憲寛編)

藤林普山の訳鍵を増補改正したものであるが、字書として語学

上必要な字性(品詞)を加えた実に完備せるコンサイス版とい

うべきもので、当時蘭学者に多大の便益を与えた。

広田憲寛八一八—一八八八✓大野藩士、幼名吉之助、後敬

次郎、叶文吉、儀大夫、九鱗。

蘭日辞書の発達系統図

フランク・ファン・デル・リッック・ゾーン 柱川甫周

☆蘭公辞書(1729) ———— ☆長崎蘭学(安政2年)

☆蘭公辞書(1729) ———— ☆長崎蘭学(安政2年)

☆蘭公辞書(1729) ———— ☆長崎蘭学(安政2年)

☆蘭公辞書(1729) ———— ☆長崎蘭学(安政2年)

☆印は大野高等学校蔵(大野藩洋字館旧蔵書)

民間内外科用法 六 (安政四刊、杉田玄端訳)

仏医マツチアス・ペヨル原撰、ヘルンチア医ヤロコップ・ロー

ベルト・ステイゲル独訳、蘭医ハン・デル・ポスト蘭訳の和訳。

杉田玄端八一八—一八八九✓名坂、通称玄端、本姓吉野、

立卿の養子(成卿の義弟)、小浜藩医。

山砲略説 (安政五刊、杉田成卿訳)

次の蘭書の山砲の部を訳したものである。

原書 Van Overstaren.

Handleiding tot de keenis der artillerie, voor

Kadeten van alle wapenen. Amsterdarn. 1850.

野砲演習式 (安政五刊、杉田成卿訳)

万宝玉手箱初篇 一 (安政五刊、杉田成卿訳)

「此の書は予が本業の暇、異国の諸書の中に見当たりぬる簡便利用の方法を抄録せる者」云々。

築城全書 廿 築城全書名義解 三 築城全図 一帖 築城全図

図解 一 (安政六写本、伊藤慎蔵記)

原書 Kerkwijk, G. A.

Krijgskundige Leerkursus.

Handleiding tot de kennis van vestingbouw, voor

de kadetten der Genie en Artillerie. Breds. 1846.

549p. 19×12 cm Atlas van XL Platen. 1846. 39×25 cm

大野藩洋学教授伊藤慎蔵の大作。特に名義解は、当時の科学用語の解説であり、多くの蘭書を参考とした大野藩蘭学の精華である。

坑卒袖診 三 (安政六写本、西川貫蔵記)

堽坑術を解説した珍書。

原書 S. F. Kljinsma

Handleiding tot de mineurkunst, vervaardigd door

S. F. kljinsma; het Medewerking van oorlog S.Grav.

1842. 202p. 19 cm

解臟図記 三 (文久元写本、細井東陽著)

福井藩医並町医に請うて男女両刑屍を得て、女屍は藩医、男屍

は町医が解剖す。是れ町医解剖の始めなり。

侃斯達篤内科書 廿 (元治元刊、坪井信良記)

原書 C. Canstatt (J. I. Dusseau)

Bijzondere Ziecke-en Geneezingsleer. uit klinisch Standpunt bewerkt. Amsterdam. 1857. 3 vols.

坪井信良ハ一八二四—一九〇四福井藩に嘉永六(年三十一)

松平慶永に聘せられた蘭学者で、越中高岡医佐藤養順の次男、

葆光斉の弟、幼名末三郎、後良益又信良、椋里と号す。

演習規範 二 (元治元刊、瓜生三寅記)

瓜生三寅ハ一八四〇—一九二二福井藩洋学者 幼名寅作、字

三寅、梅村・六合魁民、蘭学・医学・漢学を修め、西洋文化の

鼓吹に努め、著書多し。

新薬百品考 四 (慶応二刊、坪井信良記)

福井藩医坪井信良により M. Aschenbrenner (J. P. Tricht) > :

De nieuwere Geneesmiddelen. 1857. の蘭書を翻訳したもの

で、四九〇品目の中の一九二品目を和訳し、その製法、性状、

効能、主治、用法を記したものである。

英式歩操新書 一 (慶応三刊、瓜生三寅記)

磁石靈震氣療説 一 (慶応三刊、伊藤慎蔵記)

米人ダニューイス及びキッドル發明のボルネツ製造せる磁石靈

震器即改正万病治療器の用法総説書(一八五四年北米発行)の

翻訳。付録の(スタニール官許廻国足)義足の説明あり。

筆算提要 一 (慶応三刊、伊藤慎蔵記述、弓場五郎校)

当時最も進歩した西洋数学の教科書である。

健全学 六 (慶応三刊、杉田玄端記)

英国メン・ロベルト・ゼームス原著。和蘭デ・ブロン・コプス

蘭訳のもの。西洋衛生学の書である。

交通起源 一 (明治元刊、瓜生三寅訳)

一名、万国公法。ホキートン原著、ロウレンス補入。

中外貨幣量考 一 (明治元刊、瓜生三寅訳)

理化新説 四 (明治二刊、ハラマタ講述、三崎輔編)

舎密局開講之説 一 (明治二刊、ハラマタ講述、三崎輔編)

明治二年 (一八六九) 五月一日大阪舎密局開校式の Koenrand

Wolter Gratana の記念講演録。

K. W. Gratana 和蘭第二等官区、一八三一年四月二十五日ア

ッセン生、自然科学者、医学の学位を得、慶応二年来朝、長崎養

生所、開成所教師となり、明治元年大阪病院、同二年大阪舎密

局教師、同四年帰国。

三崎輔八一八四六一一八七三〇宗玄、尚之と称す。福井藩医、

長崎のハラタマにつき修業。禄百五十石、表御医師、奥医師、

大阪舎密局助教、文部少教授等に歴任。

試薬用法 二 (明治三刊、三崎輔訳)

独乙のフレンセニユス原著、大阪理学校蔵版。

呼吸傍注和英対訳辞書 一 (明治五刊、足羽県学校)

官許ホルスト、ブック 一 (明治五刊、足羽県活版局)

First book of lessons for the use of schools.

Das deutsche Lese-uebungsbuch zum Gebrauche fur die

Schuler.

合衆国政治小学 三 (明治五刊、瓜生三寅訳)

地質学 二 (明治五刊、瓜生三寅訳)

啓蒙知恵の環 三 (明治五刊、瓜生三寅(ハ於菟子)訳)

英国の陪審法。一周七日、曜日の説明。

産科宝函 一 (明治五刊、杉田玄端訳)

原書 Alfred Meadows.

The Prescribers Companion (mit Tautner) 1859.

解剖訓蒙 十九 (明治五刊、松村矩明訳)

米国解剖学教頭 Josph Leidy (1823-1891). Elementary treatise of anatomy. 1861 を松村矩明が本文のみ翻訳し、譜図は

別の書物(虞列伊)を松村が翻訳したものである。巻一〜巻四

は大阪医学校官版。巻五〜巻二十は啓蒙義舎蔵版である。

虞列伊氏解剖訓蒙図 二帖 (明治五刊、松村矩明訳)

『解剖訓蒙』の譜図である。その凡例に「解剖学ハ図絵ヲ要ス

ルヲ以テ原本固ヨリ之ヲ出セリ、然カレトモ諸本ヲ昭較スルニ

虞列乙氏ノ図絵尤モ精詳ナリ故ニ之ヲ模写シテ別冊ニ編成シ以

テ参考ニ供ス」とあり、原著は、Henry Gray. F. R. S. Anatomy. Descriptive and Surgical. Philadelphia. 1870.

であり、「大野藩文庫蔵」の印のあるもので、現在は東洋文庫

に所蔵さる。

松村矩明八一八四一一一八七三〇本姓中村氏、育、栖雲と号す。

外祖父松村九山の家を嗣ぐ。大野藩侍医、大学大助教・文部少

教授・大阪医学校長。

癩疽治範 一 (明治五刊、杉田玄端訳)

急性病類集 五 (明治六刊、岩佐純編)

岩佐純は福井藩侍医、独乙ニーマイル内科書中急性諸病の抄訳

並独国諸碩学の新説を併録す。

幼童手引草 六 (明治六刊、杉田玄端訳)

医事雜誌 一 (明治六刊、坪井信良訳)

元福井藩蘭学教授坪井信良、医事雜誌第一号を發刊す。初白齊蔵版とあり、八年十二月第四十三号にて廢刊す。是れ医事雜誌の始めなり。

独逸会話書 一 (明治六刊、福井医学学校翻刻)

Der moderne Linguist in German. Fukui 2533.

「校内頒行不許売買」の印あり。

英語会話手引 一 (明治六刊、明新館翻刻)

New guide to modern conversation in English by Bellenger.

For use in the Fukui School. Sixth year of Meiji.

医用化学 三 (明治六刊、松村矩明訳)

「ニール」「スミス」合著の An analytical compendium of the various branches of medical science. John Neil, M. D. Francis Gurney Smith, M. D. Philadelphia. 1869. の化学の部を翻訳したものであべ。

生理新論 四 (明治六刊、エルメレンス口述、松村矩明筆録)

Ermerins, Jacob. 1841-1880 ヲオランダ人医師、明治初期の

大阪で医学教育にあたる。明治三年(一八七〇)来日して、A. F. Baudin の後任として大阪医学学校教師となる。学制改革で同校廃止(一八七四年十月)となり、大阪軍事病院で軍医に生理学などを講義した。

外科摘要 六 (明治六刊、竹内正信編)

Baudin, Gratama, Mansveld, Stromyer, Linhardt, Gross などの外科講義を集編したもの。

竹内正信 一八三五—一八九四 ヲ丸岡藩医、長崎に遊学、和蘭医官 A. F. Baudin, C. G. Mansveld, K. W. Gratama の三家に医学を講習。竹内玄同の次男岱二郎、麵園と号す。

製薬式 三 (明治六刊、杉田玄端訳)

原書、産科宝函に同じ。

解剖摘要 七 (明治九刊、松村矩明訳)

解剖摘要図 一帖 (明治九刊、松村矩明訳、高木玄真編)

『解剖摘要』『解剖摘要図』は、松村矩明が一八六九年米國ペンシルバニア学校教師「ニール」「スミス」合著即ち An analytical compendium of the various branches of medical science. John Neil, M. D. Francis Gurney Smith, M. D. Philadelphia. 1869. の解剖の部を翻訳したものである。『解剖摘要』の凡例に「解剖学ハ其圖ヲ要スルトモ、原本図式ハ、殊ニ細小ナレバ、觀ルニ便ナラズ、故ニ之ヲ十倍ニ模写セシメ、且ツ銅板ニ鑑シ、別ニ一冊ヲ附ス」とあり、これ『解剖摘要図』である。

検尿必携 一 (明治九刊、石塚左玄訳)

石塚左玄は福井市子安町の医者、泰輔の子。福井医学学校に学ぶ。大学南校化学局雇、薬学を研究。陸軍薬劑監。『食養心論』『外科縛帯材料脱脂法』『化学的死体貯蔵法』明治四十二・十・十七、年五十九歳。

金石学 一 (明治九刊、和田維四郎訳)

ロイニース原著

和田維四郎八一八五—一九二〇小浜藩士、鉱山学者、内務省地理局長、他に同人編の各府県金石試験記一冊刊行。

上等小学啓蒙知恵之環 三（明治九刊、瓜生三寅訳）

鑑業精義 三（明治九刊、石塚左玄編、陸軍文庫刊行）

金石識別表 一（明治十刊、和田維四郎）

条約改正論 一（明治十二刊、山金鏘二著）

陰陽両曆談 一（明治 石川県学校）

経世新論 一（明治十三刊、杉田定一著）

杉田定一八一八五—一九二九ノ号鷲山、大阪の理学校に遊学、蘭人につき理化学を学ぶ。後東京に遊学し、理化学を廃し政治学を専攻す。衆議院議長、北海道長官、貴族院議院。

英国鉄道記略 一（明治十六刊、田口虎之助訳）

英クラーク原著

商業博物誌 二（明治十八刊、瓜生三寅訳）

英のイーツ原著

小学校用手工篇 三（明治二十刊、瓜生三寅著）

西洋男女遊戯法 一（明治二十刊、瓜生三寅訳）

英のロックウード原著

独逸農政要略 一（明治二十刊、和田維四郎）

参考文献

『福井県医学史』 福井県医師会

『若越新文化史』 石橋重吉

『近代日本の医学』 阿知波五郎

『洋学史事典』 日蘭学会

『日本洋学編年史』 大槻・佐藤

『皇国医事大年表』 中野 操

『大野藩の洋学』 拙著

『大野藩のオランダ書翻訳・出版』 拙著

『大野藩蘭学関係医学資料展目録』 拙著

本稿は福井医科大学医史学講義資料であり、付属図書館『はこぶね』に発表したものに加筆したものである。

「明君あるところ蘭学あり」は故福島大学教授池田哲郎博士の名言である。本人名録の冒頭、福井、小浜、鯖江、大野の各藩主を挙げ、各人物は凡そその年代順に配列した。しかし同族のものは、その年代順とした。

（福井医科大学医学部）

西洋文化を誘導した福井県人名録

松平慶永（春嶽）（一八二八—一八九〇） 第一六代福井藩主、幕府

の政事総裁職、京都守護職、明治政府成立と共に議定内国事務

総督、民部卿、大蔵卿等歴任。

酒井忠用（二七二—一七七五） 第七代小浜藩主、讃岐守京都所司

代、宝暦四年（二七五四）山脇東洋らの本那最初の人体解剖を許

可。

間部詮勝（一八〇二—一八八四） 文化十一年（一八一四）越前国鯖江

五万石、初名詮良、通称鍼之進、下総守、松堂、蘭学者と交際、外国知識を得た。伊東玄朴を將軍の奥医師に推薦、玄朴塾「象先堂」の扁額を書いた。

土井利忠(一八一〇—一八六七) 大野藩主第七代能登守。欽斎又柳

涯と号す。小関三英、杉田成卿につき蘭学を修む。藩校明倫館

並に洋学館創設、種痘所開設(安政四年、一八五七)、強制種痘。

洋型帆船大野丸新造(安政五年、一八五八) 蝦夷開拓及び樺太の防備に従事す。翌六年八月末米国難破商船を箱館沖に救助す。

海上砲術全書、海上砲具全図(安政元年、一八五四)、英吉利文典(安政四年、一八五七) 出版。

栗崎道喜(正勝)(一六一九—一六九八) 七十七歳、道喜(正元)の嫡

男、寛文六年(一六六六)、松平光通の福井藩医、南蛮流金創医。

越前栗崎家は福井藩の解剖に何等かの示唆を与えたものと思われる。

奥田秀的 南蛮外科医、潜キリンタン。

半井 彦(道泉) 福井藩医、福井で人体解剖を最初に行う。減

艦。

山室知将(松軒)(一八〇三—一八〇三) 七十五歳、福井藩医半井彦と

共に福井で人体解剖を最初に行う。明和六年(一七六八)。

杉田玄白(一八一七—一八一七) 八十五歳、小浜藩医、解体新書の翻

訳者、蘭学事始、翼、子鳳、鴟齋、九幸。

中川淳庵(一七三九—一七八六) 小浜藩医、本草家、解体新書の翻

訳者、名玄鱗。

小石元俊(一八〇八—一八〇八) 六十六歳、本姓林野氏、小浜出身、

京都の蘭学者。

新宮凉庭(一七八七—一八五四) 京都の医師、順正書院の創始者。

福井藩、鯖江藩の用度を勤める。

大矢孝靖 元越前の人、大坂の蘭学者、女屍解剖図を残す。

池田冬蔵(一七八四—一八三六) 福井藩医、「解臟図賦」傷寒六経

図説、傷寒論詳解、老子解、医学淵源。

杉田伯元(一七六三—一八三三) 小浜藩医、杉田玄白の養子、蘭学

者、瘍医方範。

杉田立卿(一七八六—一八四五) 小浜藩医、杉田玄白の息子、蘭学

者、眼科新書、梅創新書、瘍科新選、和蘭外科要方、外科手術

纂要、荷蘭語林集解。

杉田恭卿(一七九四—一八一四) 杉田伯元の息子、梅松、靖、松鶴

蘭園。

杉田成卿(一八一七—一八五九) 小浜藩医、杉田立卿の息子和蘭憲

法を訳す。複性運動訳説ニウエンボイス抄訳、濟生三方、聴胸

器用表略記、砲術訓蒙、万宝玉手箱、治痘真訣。

杉田玄端(一八一八—一八八九) 著書調所出役教授手当(安政五年、

一八五八)、地学正宗、民間内外科要方、健全学痘瘡金針、産科

宝函、化学要論。幼童手引草、製菓式。

妻木栄輔(一八四二—一八四二) 七十五歳、福井藩医、本草家、濟生

館の学監兼講師、春秋精義、論語精義素問精義、傷寒論精義、

本草精義、越洲産物精義、群書碎錦。

細井東陽(一八五二—一八五二) 福井藩医、本草学者、解臟図記の作

者、四診備要、本草精義、製菓録、傷寒藥量考、詩経名物解。

半井仲庵(南陽)(一八二二~一八七二) 福井藩医、福井藩蘭学の普及と笠原白翁の牛痘種痘に支援。

西島俊庵(一八二〇~一八四七) 二十四歳、鯖江藩医、長崎留学、蘭方外科、越前洋方医のはじめ。杉田玄白、大槻玄沢門。

笠原白翁(良策)(一八〇九~一八八〇) 福井の町医、種痘医、福井に牛痘法導入、牛痘問答。

土屋仲宅(一八五〇) 鯖江藩医、牛痘法導入。

土屋得所(一八一四~一八六七) 鯖江藩医、牛痘法を普及、伊東玄朴門。秦魯斎の弟。

生駒耕雲(一八七九) 七十三歳、武生藩医、外科、牛痘法の普及。

渡辺静庵(一八八〇) 七十三歳、武生に牛痘を普及。

坪井信良(一八四七) 七十二歳、蘭学者、嘉永六年(一八五三)福井藩医となる。福井藩の明道館洋言習学所教導方、亜的児吸入法試験説、カンスタット内科書、新薬百品考、医事雜誌。

市川斎宮(一八二八~一八九九) 広島の人、嘉永三年(一八五〇)福井藩主となる。蘭学者、洋書兵方を教える。遠西武器略説、開成所教授(慶応元年、一八六五)、兵学寮御用掛。

東条讓次郎 福井藩の蘭学方に採用(安政五年、一八五八)。

瓜生 寅(寓) 福井藩洋学者、演習規範、英学教授方。

大岩主一(一八六二) 五十三歳、福井の開業医から藩医に、蘭方医。

橋本左内(一八三四~一八五九) 福井藩医、外科、藩校明道館の蘭学科係、明道館幹事、御側役支配、安政の大獄に座して処刑さ

る。

益田(真下)宗三(一八二九~一八七〇) 福井藩医、蘭方医、明道館洋書習学所句読師、長崎留学(万延元年、一八六〇)。

魚住順方(格)(一八四四) 六十三歳、福井藩の町医より御目見医、蘭方医、明道館洋書習学所句読師、長崎留学(万延元年、一八六〇)。

田代道玄 福井藩医、原書学修学を命ぜらる。

岡部養竹 福井藩医、原書学修行を命ぜらる。福井藩明道館洋学句読師。

花木謙蔵 福井藩医、原書学修行を命ぜらる。

田代万隆(弘) 福井藩医、原書学修行を命ぜらる、長崎留学(万延元年、一八六〇)。

佐々木悌全 福井藩医、長崎留学(万延元年、一八六〇)。

浅野恭斎 福井藩医、長崎留学(万延元年、一八六〇)。

宮永欽也(典常)(一八六四) 三十八歳、福井の町医より藩医に登用(万延元年、一八六〇)。洋学所句読師(慶応元年、一八六五)、福井医学所教師(明治二年、一八六九)。

山田道忠 福井の町医から藩医に登用(万延元年、一八六〇)、洋学所句読師同様。

高桑道淳 福井の町医から藩医に登用(万延元年、一八六〇) 洋学所句読師同様。

橋本綱維(一八四一~一八七八) 福井藩医、長崎留学(元治元年、一八六〇)、福井藩医学校兼病院長(明治二年、一八六九)。

斎藤策順(一八五七) 三十六歳、武生の眼科医、医学館思

精館の都講。

石渡宗伯（一八二五～一八七七） 武生藩医、新宮涼庭の門人、土肥

慶蔵の父。

斎藤寛輔（一八六三） 二十七歳、武生藩医、緒方洪庵の門

人。

土田竜湾（支意）（一八一三～一八八六） 大野藩医、蘭方医、大野

藩に牛痘法を普及、颯風新話の出版に協力。緒方洪庵門人。

林 雲溪（一八六九） 大野藩医、アルマンズ流オランダ外

科、蘭方医、緒方洪庵の門人。

吉田拙蔵（静斎） 大野藩士、杉田成卿・伊東玄朴門。大野丸船

長。

伊藤慎蔵（一八二五～一八八〇） 長洲、萩浜崎の人、緒方洪庵の弟

子、塾頭、大野藩洋学館の蘭学教授（安政二年、一八五五）。颯風

新話、築城全書並全国、改正磁石靈震氣療説、筆算提要。

西川貫蔵 大野藩士、大野藩洋学館の助教、緒方洪庵門、三兵衛

訣精論、抗卒袖珍。

山崎 讓（一八六四） 大野藩士、大野藩洋学館の助教、緒

方洪庵の門人。

中村岱佐（一八六二） 大野藩蘭方医、牛痘法の普及、颯風

新話、川本幸民の門人。大野来遊の広瀬旭莊を治療。

広田憲寛（九鱗）（一八八八） 大野藩士、改正増補訳鑑。

秦 魯齋（一八〇〇～一八六三） 勝山藩医、藩校成器堂の学監、勝

山で解剖を行う。

秦 勤有（一八三三～一八〇八） 七十六歳、勝山藩医、成器堂管務

敦賀県の養蚕製糸業の振興に努める。県下で最初の機械製糸業
の導入。

藤田天洋（一八七九） 九十二歳、丸岡藩医、丸岡の蘭方の

祖。

竹内玄同（一七九五～一八八〇） 丸岡藩医、長崎遊学、シーボルト

の弟子、幕府の奥医師。

竹内正信（一八三六～一八九四） 玄同の二男、宮内省侍医、外科摘

要。

橋本秀益（一八一七～一八九九） 丸岡藩医、蘭方医。藤野昂八郎

（恒宅）（一八二二～一八八二） 丸岡の医、緒方洪庵の門人、伊藤

慎蔵の親友。

土屋寛之（一八四五～一九〇六） 鯖江藩医、福井県医師会副会長。

岐阜医学学校長。県下最初の私立土屋病院開設。

岩佐又玄（純）（一八三六～一九二二） 福井藩医、原書学修行を命

せらる。長崎留学（万延元年、一八六〇）、医学取調御用掛、大阪

医学学校校長、東京府病院長（明治七年、一八七四）、宮内省侍医、

宮内顧問官、男爵。

松村矩明（中村 斉）（一八四二～一八七七） 大野藩医、伊藤慎蔵

に蘭学、大島圭介に英学、佐藤尚中、松本良順に医学を学ぶ。

解剖訓蒙、虞列伊氏解剖訓蒙図、解剖摘要、解剖摘要図、生理

新論、医用化学。大阪医学校文部小教授、堺県病院医学校之監

督。

橋本綱常（一八四五～一九〇九） 福井藩医、左内の末弟、ポードイ

ン、松本良順の弟子、ドイツ留学、陸軍軍医総監、貴族院議員、

日本赤十字社名誉会長、子爵。

三崎嘯輔（二八四七～一八七三） 福井藩洋医、大阪舎密局、試薬用法、舎密局開講の説、試験階梯、定性試験升屋。

半井 澄（二八四七～一八九八） 長崎留学、福井医学所教師、京都療病院院長。

渡辺洪基（二八四七～一九〇二） 洋学者、帝国大学総長、貴族院議員。

（福井医科大学医学部）